

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」まちづくりへの応援メッセージ

『ふるさと意識なくして地域の活性化なし』

会報

NO. 82

2022. 6. 25 発行

編集責任者：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第 82 回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ：『地域活性化を考える』

いろいろな地域づくりの実践例⑤

ー青少年健全育成活動 39 年の実践ー

学童スポーツクラブと地域活性化

講師：榎澤 正博氏

(春日井市スポーツ推進委員連絡協議会副会長・八幡学童野球クラブ総監督)

今回のテーマは、「地域活性化を考える」ーいろいろな地域づくりの実践例⑤ー「青少年健全育成活動 39 年の実践」で設定しました。

「地域の活性化」は、多様な地域の人々の草の根の地道な実践活動によって創り出されています。理窟や理論ではなく、活動している人たちの「情熱」と「行動力」が地域に生き生きとした環境を創り出しています。全国津々浦々にある学童スポーツクラブは、子ども達の健全育成を目的に活動している組織です。子ども達と親、面倒をみる指導者が三位一体での実践活動は、地域を元気にし、明るくしています。立派な地域活性化の実践だと思います。八幡学童野球クラブ 39 年実践記録を報告していただきました。



講演：榎澤正博氏



八幡学童野球クラブ



会場風景

講演の概要（当日の講演と講演資料を基に編集作成いたしました。）

パワーポイントの画面に則してお話しされました。

・八幡学童野球クラブの船出（昭和 59 年）

八幡学童野球クラブ 39 年の軌跡



クラブ代表 兼 総監督
榎澤 正博

八幡学童野球クラブの船出 昭和 59 年

八幡小学校の野球クラブの顧問の先生の転任



お礼奉公という形で、指導を引き受けることに



子どもたちとの接し方が分からない

当時の田中倭人教頭先生の転任を契機に強い要請もあり、有志の父兄数名と子供たちの指導を引き受けることになりました。当時 PTA 会長であった鳥居さんの尽力で八幡学童野球クラブ育成会が発足し、学校教育から社会体育へとバトンが引き継がれる形で出発することになりました。学校からは、特別予算も組まれて、安心して子供たちの指導に当たることができました。しかし、会社では、皆各々の地位で部下を使いこなせても、子供たちの指導は全くの素人で、こどもたちとの接し方に悪戦苦闘しながらの日々でした。

八幡学童野球クラブのモットー

- ①やる気（情熱）
- ②勇気（積極性）
- ③根気（継続は力なり）

厳しさの中にも、温かみを

八幡学童野球クラブ ～10 年目

3 年目（昭和 61 年度）

ネピア杯で念願の初優勝

8 年目（平成 3 年度）

ネピア杯 優勝
県学童野球大会 優勝

10 年目（平成 5 年度）

部員 40 名 指導者 10 名



仲間の父兄とも話し合いながら、クラブのモットーを①やる気（情熱）②勇気（積極性）③根気（継続は力なり）とし、厳しさの中にも温かい心で接してゆくことを心掛けてやってまいりました。試行錯誤の日々が続きましたが、7 年目頃から育成会の活動も軌道にのり、指導者、父兄、子供たちの関係も三位一体の安定した体制が確立いたしました。

そして、成果もあがるようになってきました。3 年目（昭和 61 年）ネピア杯で念願の初優勝を果たしました。8 年目（平成 3 年）ネピア杯と県学童野球大会で優勝することができました。10 年目には、部員 40 名指導者 10 名の大所帯に発展してまいりました。

野球を通して、青少年健全育成の本来の姿が、確立し、多くの実績とノウハウを積み重ねることができました。

八幡学童野球クラブ 11～20年目

14年目（平成10年度）

新人戦県大会 **優勝**（春日井市初）

15年目（平成11年度）

尾張東部大会 **優勝**

マクドナルド杯県大会 **準優勝**

愛日大会 **優勝**

Aチームは、年間**60試合以上**



八幡学童野球クラブ 21～30年目

27年目（平成22年度）

Aチームの年間試合数が初めて**80試合**を超える

29年目（平成25年度）

県学童春日井大会 **優勝**

小原旗争奪野球大会 **優勝**

14年目（平成10年度）新人戦県大会で優勝しました。これは、春日井市では初めてのことでした。歴史の一ページを創った年でした。15年目（平成11年度）尾張東部大会優勝、マクドナルド杯県大会準優勝、愛日大会優勝の実績ができました。Aチームは年間60試合以上を行いました。27年目（平成22年度）Aチームの試合数が804試合を超えました。これは、土、日、祝日を全て消化した数になります。甲子園を目指す高校野球並みの試合数です。29年目県学童春日井大会優勝、小原旗争奪野球大会優勝しました。

八幡学童野球クラブ 31年目～

35年目（平成30年度）

Aチームが**5本**の優勝旗を勝ち取る

36年目（令和元年度）

Aチームが**5本**の優勝旗を勝ち取る
創立以来、念願の1000勝を達成

37年目（令和2年度）

Aチームが**8本**の優勝旗を勝ち取る

立浪杯 第3位（令和2年度）



八幡学童野球クラブ



立浪和義氏からの指導

35年目（平成30年度）Aチームが5本の優勝旗を勝ち取りました。36年目（令和元年度）Aチームが5本の優勝旗を勝ち取りました。そして、創立以来、念願の1000勝を達成しました。37年目（令和2年度）Aチームが8本の優勝旗を勝ち取りました。この年、立浪杯で3位になったことで、立浪和義氏（現中日ドラゴンズ監督）から野球指導を受けました。

着実に成長し、多くの実績を残してこれた背景には、八幡学童野球クラブの生みの親である故田中倭人氏（元八幡小学校教頭）が寄贈された、巨大団旗（畳2畳半）の存在があります。そこには、先生の、並々ならぬ情熱と子供たちへの愛情が込められた象徴ともいえる団旗にあると思っています。子供たち、父兄、指導者の精神的柱ともいべき存在です。

団旗の秘話



八幡学童野球クラブの生みの親である田中倭人氏（元八幡小学校教頭）が、クラブに**春日井市で一番大きな旗を贈ろう**と思い、2畳半もの大きさの特大団旗を寄贈してくれました。

今日まで卒団していった子供達は、それぞれの道で頑張っています。平成 21 年愛知啓成高校へ行った子が甲子園に出場しました。平成 23 年静岡静清高校、31 年誉高校へ行った子も甲子園に連れて行ってもらいました。社会人野球では、JR 東海で投手として頑張っている子、四国独立リーグで頑張っている子等々います。さらに医師、警察官、消防士、公務員、等々多くの卒団生が社会で活躍してくれています。特にうれしかったのは、春日井市内の中学校の教師になり野球部の監督として活躍してくれている 3 名の子との再会でした。共に練習や練習試合ができました。やってきてよかった、と共に、指導者冥利を感じている今日この頃です。

クラブ運営で大切にしていること①

人のつながり

クラブ運営で大切にしていること②

保護者への気遣い

クラブ運営で大切にしていること③

家庭の時間との両立

私が日頃心掛けてまいりましたのは、色々な方々のお世話になっているという感謝の気持ちを持って人のつながりを大切にしております。そのことは、陰となり日向となって後方支援をしていただいている育成会の父母の皆様への感謝の気持ちでもあります。

家庭の時間との両立については、特に気遣いをもって接しております。野球三昧の生活に陥らないように、日常生活の中でやるべきことをきちんとやる習慣を身に付けさせるよう心掛けて、父兄とのコミュニケーションを大切にしています。

このクラブが、ここまで続けてこられた背景には、学校、父兄のみならず、地域の物心共に、支援があったことだと思っております。とくに、鳥居松商店街の地域ぐるみの応援は、大きな原動力と共に励みになっております。地域ぐるみで子供たちを育んでいく環境を常に作っていただいております。大変感謝しております。

クラブ運営で大切にしていること⑤

鳥居松商店街への貢献

クラブ運営で大切にしていること④

春日井市のスポーツ振興

現在私は、現場をお父さん、お母さんたちに委ね、総監督という立場で関わらせてもらっております。これからは、社会体育の一翼を担う立場から現在は、春日井市スポーツ推進委員連絡協議会副会長をおおせ遣い、春日井市のスポーツ振興に微力ながら貢献してゆきたいと思っております。

(記録編集：河地 清)

OPINION

ー市民活動（ふるさと）のカー

「地域活性化」は、地域の「市民活動」の中にある！

本フォーラムでは、「地域活性化」について考えてまいりました。シリーズで5件の実践例を発表していただきました。テーマの内容は以下の通りです。

テーマ①78回（2021. 8. 7）『押沢台北をブラブラしてラブラブのまちに』（豊田洋一氏）
テーマ②79回（2021. 11. 12）『夕張派遣体験から考える地域の活性化一人から人へと情熱を伝染させる-』（神戸洋史氏）
テーマ③80回（2022. 2. 19）『桃源郷づくりで地域活性化』（糟谷理恵子氏）
④81回（2022. 5. 7）『おてらおやつクラブの取り組み』（野田芳樹氏）
テーマ⑤82回（2022. 5. 28）『青少年健全育成活動 39年の実践-学童スポーツクラブと地域活性化』（榎澤 正博氏）

バラエティーに富んだ異色の「活性化」の取り組みばかりです。

- ① 78回（2021. 8. 7）『押沢台北をブラブラしてラブラブのまちに』（豊田洋一氏）は、日本の伝統的コミュニケーションの形態であった「縁側」を現代の住宅の中に取り込んで地域の家先コミュニティを形成するというものです。高蔵寺ニュータウンの一角で100坪以上のゆとりある戸建ての庭先を活用して定期的に各家が個性溢れる居場所づくりやイベントを主催するというものです。ピアノの演奏会、得意の手料理とカフェの会、趣味とカフェ、自慢のガーデンカフェ等々、何軒梯子をしてもかまわない。正に「ブラブラしてラブラブ」のコミュニケーションが図られ地域は活気づいている。
- ② 79回（2021. 11. 12）『夕張派遣体験から考える地域の活性化一人から人へと情熱を伝染させる-』（神戸洋史氏）は、再建自治体に指定された北海道夕張市へ春日井市職員の神戸さんが派遣されました。研修と地域再建活性化のための支援としてでした。

東京都からも鈴木直道（現北海道知事）も派遣されていました。再建の鍵は、「なんとかしよう」という若い人々の「情熱」と「熱意」そしてそれを牽引するキーパーソンとなるリーダーの存在であることを学んだといいます。

- ③ 80 回（2022. 2. 19）『桃源郷づくりで地域活性化』（糟谷理恵子氏）は、高蔵寺ニュータウンで地域活性化の市民活動をしてきた体験から、自然を暮らしの中に取り入れたコミュニティづくりを目指して、「高森台県有地の活用を提案する市民の会」を発足させました。福祉施設周辺一帯に「花桃」を植樹して潤いと、憩いの「桃源郷」風景を創り出そうというものです。ハナ桃との出会いは、限界集落阿智村を花桃と温泉で再生させた、故渋谷秀逸氏でした。彼女の「情熱」と「熱意」に火を付けました。「日本アロマ環境協会賞」を受賞して、現在進行形の活性化実践です。
- ④ 81 回（2022. 5. 7）『おてらおやつクラブの取り組み』（野田芳樹氏）は、「あなたにできること、こどもたちの笑顔のため、できることからはじめてみませんか？おすそわけを送る、食品や日用品などを寄贈いただける方は、おてらおやつクラブ事務局までご送付ください。生活に困窮する家庭や団体へおすそわけいたします。」（認定 NPO 法人おてらおやつクラブパンフレットより）をコンセプトとして子どもの貧困問題解決に取り組んでおられる「おてらおやつクラブ」の活動は地域を元気にする地域創生活動でもあります。SDGs(持続可能な開発計画)の目標に沿った創造的な活動でもあります。
- ⑤ 82 回（2022. 5. 28）『青少年健全育成活動 39 年の実践-学童スポーツクラブと地域活性化』（榎澤 正博氏）は、学校体育から社会体育に移行して 39 年間にわたり少年野球を通じて青少年健全育成活動に献身的に身を捧げてこられた榎澤氏の実践活動です。自分の子供がいる時は暇を厭わず子供たちを面倒みることもできて、人の子も我が子と同じ愛の手を差し伸べる活動を 39 年間の長きに渡ってできるものではありません。氏のそうさせた原動力は何であったのでしょうか。野球と子供たちに対する「愛情」と「情熱」でした。地域ぐるみ（学校、父兄、商店街）の支援、応援が地域の活性化に大きな役割を果たしています。

こうした事例から共通の教訓を得ることが出来ます。「地域活性化」の鍵を握るのは、「試行錯誤」と「創意工夫」そしてそれを推し進める人の「情熱」と「熱意」であるということがわかります。従来までの、経済原理中心の「地域活性化」策から、コミュニティ原理（人と人との繋がり）を中心にした発想に切り替えるべき時代の到来ではないかと思います。

「市民活動」は百花繚乱、千差万別です。「活性化」の種は、地道に「情熱」と「熱意」をもって展開されている「市民活動」の中にこそあるということが上記の事例から学び取ることができます。（文責：河地 清）

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学

検 索

